

CANCER STATISTICS IN JAPAN - 2015





Foundation for Promotion of Cancer Research

目

	図 表 編	
1	2015年がん死亡数・罹患数予測・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
2	部位別がん死亡数(2014年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
3	年齢階級別がん死亡 部位内訳 (2014年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
4	- 部位別がん死亡率(2014年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
5		
6	部 / 2 / 1 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2	
7	年齢階級別がん罹患 部位内訳 (2011年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
8		5
9	地域がん登録における5年生存率(2003 ~ 2005年診断例)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
10	全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(2004~2007年診断例)・・・・・・・・・・・・・・28~2	
	全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における10年生存率(1999 ~ 2002年診断例)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
11	「空口がかく(成人)(新) ビンジー (M) 磁気が 温が色成 (2007年) (1933 - 2002年) (1937 - 2002 -	
12		
12	<sup>                                   </sup>	
1/	- 主要死因別粗死亡率年次推移(1947年~ 2014年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
14	主要死因別年齡調整死亡率年次推移(1947年~2014年)····································	
10		
17	************************************	
10	年齢階級別がん死亡率推移(1965年、1990年、2014年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
10	+ 歌唱級別がん光に学推移(1965年、1990年、2014年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	-C
19	部位別がん祖権忠率推移(1980年~2011年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
20	- 年齢階級別がん罹患率推移(1980年、2010年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
21	+ 歌唱級別がた権思学推移(1960年、2011年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
22	地域がん豆球におりる5年生行学推移(1995-1996年、1997-1999年、2000-2002年、2005-2005年診断所)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
23 24		
24	喫煙率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0 :0
		5
_	資 料 編	
1	資 料 編 2015年がん死亡数・罹患数予測・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
1	<mark>資 料 編</mark> 2015年がん死亡数・罹患数予測・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67
123	資<料	67 1
2 3 4	資料編2015年がん死亡数・罹患数予測・62 ~ 6ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)64 ~ 6部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)68 ~ 7部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)72 ~ 7	67 71 75
2 3 4 5	資料編2015年がん死亡数・罹患数予測・62 ~ 6ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)・64 ~ 6部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)・68 ~ 7部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)・72 ~ 7都道府県別がん死亡率・76 ~ 8	57 71 75 51
2 3 4 5 6	資<料	57 71 75 51
2 3 4 5 6 7	資料編2015年がん死亡数・罹患数予測・62 ~ 6ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)64 ~ 6部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)68 ~ 7部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)72 ~ 7都道府県別がん死亡率76 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)82 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患率(2011年)86 ~ 8	57 71 75 51 55 59
2 3 4 5 6 7 8	資料編2015年がん死亡数・罹患数予測・62 ~ 6ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)64 ~ 6部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)68 ~ 7部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)72 ~ 7都道府県別がん死亡率76 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)82 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患率(2011年)86 ~ 8地域がん登録における5年生存率(2003~2005年診断例)90 ~ 9	57 71 75 51 55 99
2 3 4 5 6 7	資 料 編2015年がん死亡数・罹患数予測・62 ~ 6ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)64 ~ 6部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)68 ~ 7部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)72 ~ 7都道府県別がん死亡率76 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)82 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患率(2011年)86 ~ 8地域がん登録における5年生存率(2003 ~ 2005年診断例)90 ~ 9全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(2004 ~ 2007年診断例)92 ~ 9	57 71 75 51 55 59 91 95
<b>2 3 4 5 6 7 8 9</b>	資料編2015年がん死亡数・罹患数予測・62 ~ 6ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)64 ~ 6部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)68 ~ 7部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)72 ~ 7都道府県別がん死亡率76 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)82 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)86 ~ 8地域がん登録における5年生存率(2003 ~ 2005年診断例)90 ~ 9全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(1999 ~ 2002年診断例)96 ~ 9	57 71 75 81 85 89 91 95 99
2 3 4 5 6 7 8 9	資 料 編         2015年がん死亡数・罹患数予測・       62 ~ 6         ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)       64 ~ 6         部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)       68 ~ 7         部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)       72 ~ 7         都道府県別がん死亡率       76 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)       82 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)       86 ~ 8         地域がん登録における5年生存率(2003 ~ 2005年診断例)       90 ~ 9         全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(1999 ~ 2002年診断例)       92 ~ 9         かん診療連携拠点病院における5年生存率(2007年診断例)       96 ~ 9	57 71 75 81 85 91 95 99 00
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	資料編       2015年がん死亡数・罹患数予測・       62 ~ 6         ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)       64 ~ 6         部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)       68 ~ 7         部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)       72 ~ 7         都道府県別がん死亡率       72 ~ 7         部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)       82 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)       82 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患率(2011年)       86 ~ 8         地域がん登録における5年生存率(2003 ~ 2005年診断例)       90 ~ 9         全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(1999 ~ 2007年診断例)       92 ~ 9         全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における10年生存率(1999 ~ 2002年診断例)       96 ~ 9         がん診療連携拠点病院における5年生存率(2007年診断例)       10         小児・AYA世代のがん       10	57 11 15 13 15 19 10 19 10 10 10
<b>2 3 4 5 6 7 8 9</b> 10 11 12	資料編2015年がん死亡数・罹患数予測・62 ~ 6ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)64 ~ 6部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)68 ~ 7部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)72 ~ 7都道府県別がん死亡率76 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)82 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患率(2011年)86 ~ 8地域がん登録における5年生存率(2003 ~ 2005年診断例)90 ~ 9全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(1999 ~ 2002年診断例)92 ~ 9全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における10年生存率(1999 ~ 2002年診断例)96 ~ 9がん診療連携拠点病院における5年生存率(2007年診断例)10小児・AYA世代のがん10主要死因別粗死亡率年次推移(1910年~ 2014年)102 ~ 10	57 71 75 51 55 59 11 59 10 59 10 59 10 50 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	資 料 編2015年がん死亡数・罹患数予測・62 ~ 6ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)64 ~ 6部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)68 ~ 7部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)72 ~ 7都道府県別がん死亡率76 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)82 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)82 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)86 ~ 8地域がん登録における5年生存率(2003 ~ 2005年診断例)90 ~ 9全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(1999 ~ 2007年診断例)92 ~ 9全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における10年生存率(1999 ~ 2002年診断例)96 ~ 9がん診療連携拠点病院における5年生存率(2007年診断例)10小児・AYA世代のがん10主要死因別粗死亡率年次推移(1910年~2014年)104 ~ 10主要死因別年齢調整死亡率年次推移(1947年~2014年)104 ~ 10	57 71 75 75 75 75 75 75 75 75 75 75
<b>2 3 4 5 6 7 8 9</b> 10 11 12 13 14	資 料 編2015年がん死亡数・罹患数予測・・・・・・62 ~ 6ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)・・・・・・・・・64 ~ 6部位別年齢階級別がん死亡支・割合(2014年)・・・・・・・・・・・・68 ~ 7部位別年齢階級別がん死亡率72 ~ 7都道府県別がん死亡率76 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	57 1 5 1 5 9 1 5 9 0 1 3 5 9
2       3       4       5       6       7       8       9       10       11       12       13       14       15	資料編2015年がん死亡数・罹患数予測・62 ~ 6ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)64 ~ 6部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)68 ~ 7部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)72 ~ 7都道府県別がん死亡率76 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)82 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患率(2011年)86 ~ 8地域がん登録における5年生存率(2003 ~ 2005年診断例)90 ~ 9全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(2004 ~ 2007年診断例)90 ~ 9全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における10年生存率(1999 ~ 2002年診断例)96 ~ 9がん診療連携拠点病院における5年生存率(2007年診断例)10小児・AYA世代のがん10主要死因別粗死亡率年次推移(1910年~2014年)104 ~ 10喫煙率106 ~ 10がん検診受診率(2007年、2010年、2013年)110 ~ 11	7       1       5       1       5       9       1       5       9       1       1       3       15       19       1       1       3       15       19       1       1       3       15       19       1       1       3       15       19       1       1       3       15       19       1       1       3       15       19       1       1       3       15       19       1
2       3       4       5       6       7       8       9       10       11       12       13       14       15       16         16 <th>資料編2015年がん死亡数・罹患数予測・62 ~ 6ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)64 ~ 6部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)68 ~ 7部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)72 ~ 7都道府県別がん死亡率76 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)82 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)82 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患率(2011年)86 ~ 8地域がん登録における5年生存率(2003 ~ 2005年診断例)90 ~ 9全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(2004 ~ 2007年診断例)92 ~ 9全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における10年生存率(1999 ~ 2002年診断例)96 ~ 9がん診療連携拠点病院における5年生存率(2007年診断例)10小児・AYA世代のがん10主要死因別粗死亡率年次推移(1910年~2014年)104 ~ 10喫煙率104 ~ 10吹煙率106 ~ 10がん検診受診率(2007年、2010年、2013年)110 ~ 11医療用麻薬消費量112 ~ 11</th> <th>7       1       5       1       5       9       1       5       9       1       3       5       9       1       3       5       9       1       3       5       9       1       3       5       9       1       3       5       9       1       3       5       9       1       3       5       9       1       3       5       9       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       1       3       3       1       3       3       3       1       3       3       3       3       1       3       3       3       1       3</th>	資料編2015年がん死亡数・罹患数予測・62 ~ 6ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)64 ~ 6部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)68 ~ 7部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)72 ~ 7都道府県別がん死亡率76 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)82 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)82 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患率(2011年)86 ~ 8地域がん登録における5年生存率(2003 ~ 2005年診断例)90 ~ 9全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(2004 ~ 2007年診断例)92 ~ 9全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における10年生存率(1999 ~ 2002年診断例)96 ~ 9がん診療連携拠点病院における5年生存率(2007年診断例)10小児・AYA世代のがん10主要死因別粗死亡率年次推移(1910年~2014年)104 ~ 10喫煙率104 ~ 10吹煙率106 ~ 10がん検診受診率(2007年、2010年、2013年)110 ~ 11医療用麻薬消費量112 ~ 11	7       1       5       1       5       9       1       5       9       1       3       5       9       1       3       5       9       1       3       5       9       1       3       5       9       1       3       5       9       1       3       5       9       1       3       5       9       1       3       5       9       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       3       1       3       1       3       3       1       3       3       3       1       3       3       3       3       1       3       3       3       1       3
2       3       4       5       6       7       8       9       10       11       12       13       14       15       16       17	資 料 編         2015年がん死亡数・罹患数予測       62 ~ 6         ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)       64 ~ 6         部位別年齡階級別がん死亡数・割合(2014年)       68 ~ 7         部位別年齡階級別がん死亡率       72 ~ 7         都道府県別がん死亡率       72 ~ 7         都道府県別がん死亡率       72 ~ 7         部位別年齡階級別がん死亡率       72 ~ 7         部位別年齡階級別がん死亡率       72 ~ 7         部位別年齡階級別がん死亡率       72 ~ 7         部位別年齡階級別がん死亡率       72 ~ 7         部位別年齡階級別がん飛患数・割合(2011年)       82 ~ 8         部位別年齡階級別がん罹患率(2011年)       82 ~ 8         部位別年齡階級別がん罹患率(2011年)       82 ~ 8         宇政がん登録における5年生存率(2003 ~ 2005年診断例)       90 ~ 9         全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(1999 ~ 2002年診断例)       92 ~ 9         全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における10年生存率(1999 ~ 2002年診断例)       96 ~ 9         がん診療連携拠点病院における5年生存率(2007年診断例)       10         小児・AYA世代のがん       10         主要死因別相死亡率年次推移(1910年~2014年)       104 ~ 10         喫煙率       106 ~ 10         がん検診受診率(2007年、2010年、2013年)       110 ~ 11         医療用麻薬消費量       112 ~ 11         喫煙、飲酒と栄養摂取の変化       114 ~ 11	715159159013591359135
2       3       4       5       6       7       8       9       10       11       12       13       14       15       16       17       18	資 料 編         2015年がん死亡数・罹患数予測・       62 ~ 6         ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)       64 ~ 6         部位別年齢階級別がん死亡文数・割合(2014年)       68 ~ 7         部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)       72 ~ 7         都道府県別がん死亡率(2014年)       72 ~ 7         部位別年齢階級別がん死亡率(2011年)       82 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)       82 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)       86 ~ 8         地域がん登録における5年生存率(2003 ~ 2005年診断例)       90 ~ 9         全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(1999 ~ 2002年診断例)       92 ~ 9         全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における10年生存率(1999 ~ 2002年診断例)       96 ~ 9         がん該療連携拠点病院における5年生存率(2007年診断例)       10         小児・AVA世代のがん       10         主要死因別相死亡率年次推移(1910年~2014年)       102 ~ 10         主要死因別年齢調整死亡率年次推移(1947年~2014年)       104 ~ 10         喫煙率       106 ~ 10         がん検診受診率(2007年、2010年、2013年)       110 ~ 11         医療用麻薬消費量       112 ~ 11         喫煙、飲酒と栄養摂取の変化       114 ~ 11         受療率の推移(1965年~2011年)       11	7151591590013591356
2       3       4       5       6       7       8       9       10       11       12       13       14       15       16       17	資 料 編         2015年がん死亡数・罹患数予測       62 ~ 6         ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)       64 ~ 6         部位別年齢階級別がん死亡支・割合(2014年)       68 ~ 7         部位別年齢階級別がん死亡率(2014年)       72 ~ 7         都道府県別がん死亡率(2014年)       76 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)       82 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患率(2011年)       86 ~ 8         地域がん登録における5年生存率(2003 ~ 2005年診断例)       90 ~ 9         全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(2004 ~ 2007年診断例)       92 ~ 9         全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(1999 ~ 2002年診断例)       96 ~ 9         がん診療連携拠点病院における5年生存率(2007年診断例)       10         小児・AYA世代のがん       10         主要死因別串発調整死亡率年次推移(1910年~2014年)       102 ~ 10         主要死因別年齢調整死亡率年次推移(1947年~2014年)       104 ~ 10         喫煙率       106 ~ 10         がん検診受診率(2007年、2010年、2013年)       110 ~ 11         医療用麻薬消費量       112 ~ 11         喫煙、飲酒と栄養摂取の変化       114 ~ 11         受療率の推移(1965年~2011年)       114 ~ 11         雪療電の推移(1995年~2013年)       114 ~ 11	71515915900135913567
2       3       4       5       6       7       8       9       10       11       12       13       14       15       16       17       18	資 料 編         2015年がん死亡数・罹患数予測       62 ~ 6         ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)       64 ~ 6         部位別年齢階級別がん死亡支。(2014年)       68 ~ 7         部位別年齢階級別がん死亡率       72 ~ 7         都道府県別がん死亡率       76 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)       82 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)       86 ~ 8         地域がん登録における5年生存率(2003 ~ 2005年診断例)       90 ~ 9         全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(2004 ~ 2007年診断例)       90 ~ 9         全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(1999 ~ 2002年診断例)       96 ~ 9         がん診療連携拠点病院における5年生存率(2007年診断例)       96 ~ 9         がん診療連携拠点病院における5年生存率(2007年診断例)       10         小児・AYA世代のがん       10         主要死因別年齢調整死亡率年次推移(1910年~ 2014年)       102 ~ 10         主要死因別年齢調整死亡率年次推移(1947年~ 2014年)       104 ~ 10         喫煙率       106 ~ 10         がん検診受診率(2007年、2010年、2013年)       110 ~ 11         医療用麻薬消費量       112 ~ 11         喫煙       104 ~ 10         空標本の推移(1965年~ 2011年)       11         11       11         空橋東の推移(1965年~ 2013年)       11         11       11         空橋費の推移(1995年~ 2013年)       11         118       118 ~ 12	7       1       5       1       5       1       5       1       1       1       1       1       3       5       6       7       1
2       3       4       5       6       7       8       9       10       11       12       13       14       15       16       17       18	資 料 編         2015年がん死亡数・罹患数予測・       62 ~ 6         ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)       64 ~ 6         部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)       68 ~ 7         部位別年齢階級別がん死亡率       72 ~ 7         都位別年齢階級別がん死亡率       76 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患率       2011年)         82 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患率       2011年)         82 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患率       2011年)         82 ~ 8         部位別年齢階級別がん電患率       2011年)         82 ~ 8       第位別年齢間級別がん電患率         2013 ~ 2003 ~ 2005年診断例)       90 ~ 90         全国がん(成人病) センター協議会加盟施設における5年生存率       (2004 ~ 2007年診断例)         92 ~ 9       全国がん(成人病) センター協議会加盟施設における5年生存率       100 ~ 10         主要死因別和美術会       104 ~ 10         空襲死し、かん       104 ~ 10         空襲不       106 ~ 10         がん検診受診率       2007年、2010年、2013年)         11	7151591590013591356712
2       3       4       5       6       7       8       9       10       11       12       13       14       15       16       17       18	資 料 編2015年がん死亡数・罹患数予測62 ~ 6ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)64 ~ 6部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)68 ~ 7部位別年齢階級別がん死亡率72 ~ 7都道府県別がん死亡率76 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患数・割合(2011年)82 ~ 8部位別年齢階級別がん罹患率86 ~ 8火肉の素量90 ~ 9全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(2004 ~ 2007年診断例)90 ~ 9全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(1999 ~ 2002年診断例)90 ~ 9全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(1999 ~ 2002年診断例)96 ~ 9がん診療連携拠点病院における5年生存率(2007年診断例)10小児・AYA世代のがん10主要死囚別年齢調整死亡率年次推移(1910年~2014年)102 ~ 10主要死囚別年齢調整死亡率年次推移(1947年~2014年)104 ~ 10喫煙率106 ~ 10がん検診受診率(2007年、2013年)110 ~ 11医療用麻薬消費量112 ~ 11喫煙家の推移(1965年~2013年)111 ~ 11空療の推移(195年~2013年)118 ~ 12トビックス①118 ~ 12トビックス②118 ~ 12トビックス②12	71515915901359135913567123
2       3       4       5       6       7       8       9       10       11       12       13       14       15       16       17       18	資 料 編         2015年がん死亡数・罹患数予測・       62 ~ 6         ICD-10三桁分類別がん死亡(死亡数・割合)(2014年)       64 ~ 6         部位別年齢階級別がん死亡数・割合(2014年)       68 ~ 7         部位別年齢階級別がん死亡率       72 ~ 7         都位別年齢階級別がん死亡率       76 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患率       2011年)         82 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患率       2011年)         82 ~ 8         部位別年齢階級別がん罹患率       2011年)         82 ~ 8         部位別年齢階級別がん電患率       2011年)         82 ~ 8       第位別年齢間級別がん電患率         2013 ~ 2003 ~ 2005年診断例)       90 ~ 90         全国がん(成人病) センター協議会加盟施設における5年生存率       (2004 ~ 2007年診断例)         92 ~ 9       全国がん(成人病) センター協議会加盟施設における5年生存率       100 ~ 10         主要死因別和美術会       104 ~ 10         空襲死し、かん       104 ~ 10         空襲不       106 ~ 10         がん検診受診率       2007年、2010年、2013年)         11	715159159013591359135671234



Figures and Tables



#### (1) 部位別予測がん死亡数(2015) Estimated Number of Cancer Deaths by Site (2015)



#### (2) 部位別予測がん罹患数(2015) Estimated Number of Cancer Incidence by Site (2015)



予測は、全国がん罹患モニタリング集計の年齢階級別罹患数(1975~2011 全国推計値)および人口動態統計がん死亡数(1975~2013 実測値)を用いて、年齢、暦年およびそれらの交互作用を説明変数とした予測モデルにより行った。

Expected numbers of cancer deaths and incidence were provided by age period interaction model. The prediction model included the number of incidence from 1975 to 2011, mortality from 1975 to 2013, age at diagnosis, calendar year and those interaction as independent variable.

わが国のがん死亡数の 2015 年推計値は、約 37 万 900 人である(男性 21 万 9 千 200、女性 15 万 1 千 700)。部位別の死亡数は、男性で は肺が最も多くがん死亡全体の 25% を占め、次いで胃(15%)、大腸(12%)、肝臓(9%)、膵臓(8%)の順、女性では大腸が最も 多く(15%)、次いで、肺(14%)、胃(11%)、膵臓(11%)、乳房(9%)の順となっている。

わが国のがん罹患数の 2015 年推計値は、約 98 万 2 千 100 例である(男性 56 万 300、女性 42 万 1 千 800)。部位別では男性で前立腺 (18%)、胃(16%)、肺(16%)、大腸(14%)、肝臓(5%)の順、女性で乳房(21%)、大腸(14%)、肺(10%)、胃(10%)、子宮(7%) の順となっている。

Estimated number of cancer deaths in Japan in 2015 was approximately 370,900 (219,200 males and 151,700 females). Lung was the leading site (25%) for males, followed by stomach (15%), colon/rectum (12%), liver (9%), and pancreas (8%). The leading site for females was colon/rectum (15%), followed by lung (14%), stomach (11%), pancreas (11%), and breast (9%).

Estimated number of cancer incidence in Japan in 2015 was approximately 982,100 (560,300 for males and 421,800 for females). Prostate was the most common cancer site (18%) for males, followed by stomach (16%), lung (16%), colon/rectum (14%), and liver (5%). The most common cancer site for females was breast (21%), followed by colon/rectum (14%), lung (10%), stomach (10%), and uterus (7%).

資料:国立がん研究センターがん対策情報センター(http://ganjoho.jp/reg\_stat/statistics/stat/short\_pred.html) Source : Center for Cancer Control and Information Services, National Cancer Canter, Japan (http://ganjoho.jp/en/public/statistics/short\_pred.html)



部位別がん死亡数 (2014年) Number of Deaths, by Cancer Site (2014)



# ◆ 2014年にがんで死亡した人は36万8,103人(男性21万8,397人、女性14万9,706人) ◆ 2014年の死亡数が多い部位

# 368,103 persons died from cancer in 2014 (males 218,397, females 149,706)

#### **Five leading sites in 2014 mortality**

		1 位 1st	2位 2nd	3位 3rd	4 位 4th	5 位 5th	備    考 Memo
男性	生	肺	胃	大腸	肝臓	膵臓	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸4位、直腸7位
Mal	es	Lung	Stomach	Colon/rectum	Liver	Pancreas	Colon: 4th, rectum: 7th, when separated.
女性	生	大腸	肺	胃	膵臓	乳房	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸2位、直腸9位
Fema	ales	Colon/rectum	Lung	Stomach	Pancreas	Breast	Colon: 2nd, rectum: 9th, when separated.
男女	計	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸3位、直腸7位
Bot	h	Lung	Colon/rectum	Stomach	Pancreas	Liver	Colon: 3rd, rectum: 7th, when separated.

わが国のがん死亡は、全数調査である人口動態調査により把握されている。2014年にがんで死亡した人の数は約36万8千人であり、男性が女性の約1.5倍である。部位別の死 亡数は、男性では肺が最も多くがん死亡全体の24.0%を占 め、次いで胃(14.4%)、大腸(12.0%)、肝臓(8.8%)、膵 臓(7.5%)の順、女性では大腸が最も多く(14.9%)、次い で、肺(14.0%)、胃(11.0%)、膵臓(10.2%)、乳房(8.8%) の順となっている。 Cancer deaths in Japan are surveyed by vital statistics, with 100% coverage. The number of cancer deaths in 2014 in Japan was approximately 368,000. The number of male cancer deaths was 1.5 times greater than that of female cancer deaths. In terms of cancer sites, lung was the leading site (24.0%) for males, followed by stomach (14.4%), colon/rectum (12.0%), liver (8.8%), and pancreas (7.5%). The leading site for females was colon/rectum (14.9%), followed by lung (14.0%), stomach (11.0%), pancreas (10.2%), and breast (8.8%).

## 年齢階級別がん死亡 部位内訳 (2014年) Cancer Deaths by Age Group, Site Distribution (2014)



がん死亡の部位内訳を年齢階級別に見ると、男性では、 40歳以上で胃、大腸、肝臓など消化器系のがんが5~6割 を占め、70歳以上では肺がんと前立腺がんの割合が大きく なる。女性では、40歳代で乳がん、子宮がん、卵巣がんの 死亡が約半分を占めるが、高齢になるほどその割合は小さ くなり、消化器系と肺がんの割合が大きくなる。男女とも 39歳以下では、他の年齢階級に比べて、消化器系および肺 がんの占める割合が小さく、白血病の占める割合が大きい。

The site distribution of cancer mortality varied across age groups. For males aged 40 years or older, cancer of the intestine (stomach, colon/rectum, liver etc.) accounted for 50-60% of cancer mortality, and the proportion of lung and prostate cancer was large among 70 years or older. For females aged 40-49 years, approximately half of cancer deaths were accounted for by cancer of the breast, uterus, and ovary, while the proportion of those sites decreased and the proportion of cancer in intestine increased with age. For both males and females under 40 years old, the proportion of cancer of the intestine and lung was small and the proportion of leukemia was large, as compared with older age groups.





 ◆2014年のがんの死亡率は男性357.8、女性232.5(人□10万対)
 ◆2014年の粗死亡率が高い部位は、男性では肺、胃、大腸、肝臓、膵臓の順、女性では大腸、肺、胃、膵臓、 乳房の順

Cancer mortality rate in 2014 was 357.8 for males and 232.5 for females (per 100,000 population)

The cancer site with the highest mortality rate in 2014 was lung for males, followed by stomach,colon/rectum, liver, and pancreas; colon/rectum was the highest for females, followed by lung, stomach, pancreas, and breast.

わが国の2014年のがん死亡率(人口10万人当たり何例死 亡するか)は、男性で約358、女性では約232である。多く の部位で男性が女性より死亡率が高い。特に、口腔・咽 頭、食道、胃、喉頭、肺、膀胱では男性の死亡率が女性の 2倍以上である。一方、甲状腺では女性が男性より死亡率 が高い。部位別死亡率では、男性は肺、胃、大腸、肝臓、 膵臓の順に高く、女性は大腸、肺、胃、膵臓、乳房の順に 高い。 Cancer mortality rate (annual number of deaths per 100,000 population) in Japan in 2014 was approximately 358 for males and 232 for females. The mortality rates were higher among males than females for many cancer sites, especially oropharynx, esophagus, stomach, larynx, lung, and bladder (over twice). On the other hand, female mortality rates were higher than male for thyroid. The cancer sites with the highest mortality rate in 2014 were lung, stomach, colon/rectum, liver, and pancreas for males, colon/rectum, lung, stomach, pancreas, and breast, for females.

都道府県別75歳未満がん年齢調整死亡率 (2014年) Age-adjusted Cancer Mortality Rate under Age 75 by Prefectures (2014)



全がん死亡率が低い上位5県は、 男女計 長野県、三重県、滋賀県、福井県、宮崎県 男性 長野県、滋賀県、福井県、三重県、静岡県

香川県、三重県、宮崎県、山梨県、新潟県

女性

ity rate under age 75 in 2014 were as follows.

Both sexes	Nagano, Mie, Shiga, Fukui and Miyazaki
Males	Nagano, Shiga, Fukui, Mie and Shizuoka
Females	Kagawa, Mie, Miyazaki, Yamanashi and Niigata



tality rate under age 75 in 2014 were as follows.

(stomach, colon/rectum, liver, lung, and breast)

Males

Females

Both sexes Aomori, Hokkaido, Tottori, Akita and Saga

Those five prefectures with high all-cancer mortality rate also

tended to show high mortality rates for major five cancer sites

Aomori, Akita, Tottori, Wakayama and Hokkaido

Aomori, Hokkaido, Saga, Fukuoka and Nagasaki

がん死亡率が高い上位5県は、

男女計 青森県、北海道、鳥取県、秋田県、佐賀県 青森県、秋田県、鳥取県、和歌山県、北海道 男性 女性 青森県、北海道、佐賀県、福岡県、長崎県、 である。全がん死亡率が高いこれらの都道府県は、主要5 部位(胃、大腸、肝臓、肺、乳房)の死亡率も高い傾向が ある。

最新がん統計 Cancer Statistics Update

19



部位別で死亡率の地域差が明らかな部位は、 [胃がん] 男女とも東北地方の日本海側で死亡率が高い。 [肝臓がん] 男女とも西日本で死亡率が高い。これは、西 日本でC型肝炎ウィルスの感染者割合が高いことに関連し ている。

Geographic patterns of site-specific cancer mortality were as follows.

**[Stomach]** Higher mortality rate for both sexes was seen in the Western part of Tohoku district.

[Liver] Higher mortality rate for both sexes was seen in Western Japan. This is associated with higher prevalence of hepatitis C virus infection in Western Japan.



[肺がん] 男女とも近畿地方および北海道で死亡率が高い。 [乳がん(女性)] 北九州、東日本で死亡率が高く、中国・ 南九州・沖縄地方で低い。 [Lung] Higher mortality rate for both sexes was seen in the Kinki and Hokkaido districts.

[Breast (females)] Higher mortality rate was seen in the Northern part of Kyushu island and Eastern Japan, while lower mortality rate was seen in the Chugoku Southern Kyushu and Okinawa districts.



[前立腺がん] 東北地方北部で死亡率が高い。 [白血病] 男女とも九州・沖縄地方で死亡率が高い。これは、九州・沖縄地方で成人T細胞白血病ウィルス I 型(HTLV-I)の感染者割合が高いことと関連している。

[**Prostate**] Higher mortality rate was seen in the Northern part of the Tohoku district.

[Leukemia] Higher mortality rate for both sexes was seen in the Kyushu and Okinawa islands. This is associated with higher prevalence of human T-cell leukaemia virus type I infection in those regions.





# 2011年に新たに診断されたがんは85万1,537 例(男性49万6,304例、女性35万5,233例) 2011年の罹患数が多い部位

#### 851,537 new cancer cases were diagnosed in 2011 (males 496,304, females 355,233)

	1 位	2位	3位	4位	5位	備    考
	1st	2nd	3rd	4th	5th	Memo
男性	胃	前立腺	肺	大腸	肝臓	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸4位、直腸6位
Males	Stomach	Prostate	Lung	Colon/rectum	Liver	Colon: 4th, rectum: 6th, when separated.
女性	乳房	大腸	胃	肺	子宮(全体)	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸3位、直腸8位
Females	Breast	Colon/rectum	Stomach	Lung	Uterus	Colon: 3rd, rectum: 8th, when separated.
男女計	胃	大腸	肺	前立腺	乳房	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸3位、直腸7位
Both	Stomach	Colon/rectum	Lung	Prostate	Breast	Colon: 3rd, rectum: 7th, when separated.

わが国のがん罹患(新たにがんと診断されること)は、 十数府県の地域がん登録で把握されたデータから全国値を 推計している。それによると、2011年に新たに診断され たがんは約85万2千例であり、男性が女性の約1.4倍である。 部位別の罹患数は、男性では胃が最も多くがん罹患全体の 18.2%を占め、次いで前立腺(15.9%)、肺(15.2%)、大 腸(14.5%)、肝臓(5.9%)の順、女性では、乳房が最も 多く20.4%、次いで、大腸(14.9%)、胃(11.8%)、肺(10.3%)、 子宮(7.5%)の順となっている。

Cancer incidence cases in Japan were estimated from data collected by the cancer registry system in approximately a third of the 47 prefectures. The number of cancer incidence cases in 2011 in Japan was approxi-mately 852,000 The number of male cancer incidence was 1.4 times as large as that of females. In terms of cancer sites, the stomach was the leading site (18.2%) for males, followed by prostate (15.9%), lung (15.2%), colon/rectum (14.5%), liver (5.9%). The leading cancer site for females was breast (20.4%), followed by colon/rectum (14.9%), stomach (11.8%), lung (10.3%), and Uterus (7.5%).





がん罹患の部位内訳を年齢階級別に見ると、男性では、 40歳以上で胃、大腸、肝臓などの消化器系のがんが5~6 割を占め、70歳以上では肺がんと前立腺がんの割合が大き くなる。女性では、40歳代で乳がんが約50%、子宮がんと 卵巣がんが合わせて約20%を占めるが、高齢になるほどそ れらの割合は小さくなり、消化器系(胃、大腸、肝臓など) と肺がんの割合が大きくなる。男性の39歳以下では、40歳 以上に比べて、消化器系および肺がんの占める割合が小さ く、白血病の占める割合が大きい。女性の39歳以下では、 40歳以上に比べて、子宮頸部の割合が大きい。

The site distribution of cancer incidence varied across age groups. For males aged 40 years or older, cancer of the intestine (stomach, colon/rectum, liver etc.) accounted for 50-60% of can-cer incidence, and the proportion of lung and prostate cancer was large among 70 years or older. For females aged 40-49 years old, approximately half of cancer incidence cases were accounted for by cancer of the breast, and approximately 20% were accounted for by uterus and ovary. The proportion of those three sites decreased with age and the proportion of intestine (e.g. stomach, colon/rectum, liver) and lung increased instead. For males under age 40, the proportion of leukaemia was larger, as compared with 40 years or older age groups. For females under age 40, the proportion of cervix uteri was greater than that of females aged 40 years or older.





🚸 2011年のがんの罹患率は男性798.1、女性541.4(人口10万対)

※2011年の罹患率が高い部位は順に、男性では胃、前立腺、肺、大腸、肝臓の順、女性では乳房、大腸、胃、 肺、子宮の順

🕸 Cancer incidence rate in 2011 was 798.1 for males, 541.4 for females (per 100,000 population)

The cancer sites with the highest incidence rate in 2011 was stomach for males, followed by prostate, lung, colon/ rectum, and liver ; breast for females, followed by colon/rectum, stomach, lung, and uterus.

2011年のがんの罹患率(人口10万人当たり何例新たに診 断されるか)は男性で798.1、女性で541.4である。死亡と 同様に多くの部位で男性が女性より罹患率が高い。特に、 口腔・咽頭、食道、胃、肝臓、喉頭、肺、膀胱、腎臓で男 性の罹患率が女性の2倍以上である。皮膚と甲状腺では女 性が男性より罹患率が高い。部位別罹患率では、男性では 胃、前立腺、肺、大腸、肝臓の順に高く、女性では乳房、 大腸、胃、肺、子宮の順に高い。

Cancer incidence rate (annual number of newly diagnosed cases per 100,000 population) in Japan in 2011 was 798.1 for males and 541.4 for females. The incidence rates were higher among males than females, especially for oropharyx, esophagus, stomach, liver, larynx, lung, and bladder (over twice). On the other hand, female incidence rates were higher than male for skin and thyroid. The cancer sites with the highest incidence rate in 2011 was stomach for males, followed by prostate, lung, colon/rectum, and liver ; breast for females, followed by colon/rectum, stomach, lung, and uterus.

#### 地域がん登録における5年生存率 (2003~2005年診断例)

5-year Survival Rate, Data from Population-based Cancer Registries (Diagnosed in 2003-2005)



#### (2) 男女計 5年相対生存率(詳細部位) 5-year Relative Survival, Both Sexes (minor sites)



🚸 地域がん登録における2003~2005年の診断例の全がんの5年相対生存率は58.6%。

- 🚸 生存率が高い部位は、乳房(女性)、子宮、前立腺、甲状腺。
- 🗇 生存率が低い部位は、食道、肝臓、肺、胆のう・胆管、膵臓、脳・中枢神経系、多発性骨髄腫、白血病。
- S-year relative survival rate for cancer patients diagnosed in 2003-2005 was 58.6% in population-based cancer registry.
- Survival rates were high for breast (females), uterus, prostate and thyroid.

<sup>8</sup> Survival rates were low for esophagus, liver, lung, gallbladder, pancreas, brain and nervous system, multiple myeloma, and leukaemia.

#### (1) 主要部位

7つの府県(宮城、山形、新潟、福井、滋賀、大阪、長 崎)の地域がん登録において2003-2005年に診断された患 者<sup>1)</sup>の主要部位の5年相対生存率をみると、全がんの生存 率は58.6%である。胃、結腸、直腸では63~70%に分布し、 全がんよりやや高い値である。乳房、子宮頸部、子宮体部、 前立腺では72~94%と比較的生存率が高く、食道、肝臓、 および肺では28~34%と生存率が低い。

#### (2) 詳細部位

詳細部位のがんの5年相対生存率をみると、喉頭および 膀胱は74~76%と比較的生存率が高く、前立腺と甲状腺 は90%以上の高い生存率を示す。胆のう・胆管、膵臓、脳・ 中枢神経系、多発性骨髄腫、白血病では7~37%と生存率 が低い。 (1) Major sites

According to data from cancer registries in 7 prefectures (Miyagi, Yamagata, Niigata, Fukui, Shiga, Osaka, and Nagasaki), the 5-year relative survival rate for cancer patients<sup>1)</sup> diagnosed in 2003-2005was 58.6%. The 5-year relative survival rates for cancer of the stomach, colon, and rectum were slightly higher than that of all-cancers, ranging from 63% to 70%. Cancer of the breast and cer-vix uteri, corpus uteri, and prostate showed higher survival rates (ranging from 72% to 94%), while esophagus, liver, and lung showed lower survival rates, ranging from 28% to 34%.

(2) Other sites and childhood cancer

Cancer of the Larynx and Bladder showed relatively high 5-year relative survival rates around 74-76%, and cancer of the prostate and thyroid showed even higher survival (over 90%). Gallbladder, pancreas, brain,nervous system, multiple myeloma, and leukemia showed low survival rates ranging from 7% to 37%.

<sup>(</sup>注) 1) 死亡票のみの患者、第2がん以降、悪性以外、上皮内がん(大腸の粘膜がんを含む)、年齢不詳および100歳以上、または遡り調査患者を除く。 Note: 1) Excluding the following cases: death certificate only, secondary cancers or later, non-malignant, carcinoma in situ (including mucosal cancers of the large bowel), age unknown or over 100, or detected by follow-back inquiry.

#### (3) 臨床進行度分布 男女計 Distribution of Clinical Stages, Both Sexes



(4) 臨床進行度別5年相対生存率 男女計 5-year Relative Survival Rate by Clinical Stages, Both Sexes



(3) 臨床進行度分布(特定部位)

7つの府県(宮城、山形、新潟、福井、滋賀、大阪、長 崎)の地域がん登録において2003-2005年に診断された患 者の診断時の臨床進行度分布をみると、がんが原発臓器・ 組織に「限局」しているものの割合は、胃、結腸、直腸、 肝臓、子宮頸部の各がんでは45~53%、乳房と子宮体部で はそれぞれ57%、64%と比較的高く、肺では26%と低い。 (4) 臨床進行度別5年相対生存率

臨床進行度別の5年相対生存率をみると、臨床病期が 「限局」の生存率は、胃、結腸、直腸、乳房、子宮、前立腺、 甲状腺では90%以上に分布し良好だが、肺では77%、肝 臓では41%と比較的不良である。所属リンパ節に転移があ るか隣接臓器・組織に浸潤している「領域」の生存率は、胃、 結腸、直腸、子宮、前立腺では45~95%に分布したが、肝 臓では13%、肺では23%と不良である。さらに進展した「遠 隔」の生存率は、乳房、子宮、前立腺および甲状腺を除け ばいずれも12%以下と極めて不良である。

#### (3) Distribution of stage at diagnosis

According to data from cancer registries in 7 prefectures (Miyagi, Yamagata, Niigata, Fukui, Shiga, Osaka, and Nagasaki), cancer classified as "localized" accounted for 45-53% for stomach, co-lon, rectum, liver, and cervix uteri, 57% and 64% for breast and corpus uteri, respectively, and 26% for lung cancer. (4) 5-year relative survival rate, by stage

The 5-year relative survival rates for "localized" cancer of the stomach, colon, rectum, breast, uterus, prostate, and thyroid were high, over 90%, while for liver and lung even "localized" cancer showed low survival rates (41% and 77%, respectively). The survival rates for "regional" cancer of the stomach, colon, rectum, uterus, and prostate ranged from 45% to 95%, while those for liver and lung were 13% and 23%, respectively. The survival rates for cancer classified as "distant" were lower than 12%, except for breast, uterus, prostate and thyroid.

#### 全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(2004~2007年診断例) 5-year Survival Rate in the Member Hospitals of the Association of Clinical Cancer Centers (Diagnosed in 2004-2007)

#### 臨床病期分布 男女計(全症例) Distribution of Clinical Stage, Both Sexes (All Cases) (1)

	<i>// / / / / / / / / / / / / / / / / / /</i>		(j) Dio	unbullo		mour	Olugo	, םסנו		5 (7 11	Ous	55)		
	)%	10%	20%	30%	40%	5	0%	60%	7	0%	80	%	90%	100
全がん All cancers		54,	622			31,6	31		25,602	) -		27,80		6,693 Inknown
食道 Esophagus		1,444		1,2	21			1,762	ш			1,457		140
胃 Stomach				14,721					1,938	2,4	45	4	4,135	490
結腸 Colon		2,624			2,108			2	2,577			2,	043	297
直腸 Rectum		1,721			1,429				1,840				1,109	201
肝臓 Liver		1,664	1			1,272				1,173			582	207
肺腺がん Lung Adeno			5,931				585		2,100			3,1	00	147
肺扁平上皮がん Lung Squamous		1,444			627				1,550				813	41
肺小細胞がん Lung small cell	275	144		846							89	92	20	
肺·気管 Lung,trachea		8	3,627		1,5	85		5,453				5,935		318
乳房 Breast 女 Females			8,930					9	9,041				2,115	878 166
子宮頸部 Cervix uteri 女 Females			2,101					876			901		47	5 107
子宮体部 Corpus uteri 女 Females				2,6	603					233	4	84	238	267
卵巣 Ovary 女 Females		7	759		175			ī	723			3	00	122
前立腺 Prostate 男 Males	332			5	,834						1,260		1,158	132

#### 臨床病期分布 男女計(手術症例のみ)Distribution of Clinical Stage, Both Sexes (Surgical Cases Only)

0	%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	-	70%	80%	5	90%	100
全がん All cancers			49,922	2			24,20 İİ	0		15,380 Ш	)	8,898 IV 不能	4,054 明 Unknown
食道 Esophagus		475		7	37				792			262	
胃 Stomach				9,342				1,870	)	2,30	)1	1,51	16 175
結腸 Colon		2,195		2	,097			2,553				1,530	161
直腸 Rectum		1,485			1,410			1,799	)			878	105
肝臓 Liver			592				399			3	54		43 37
肺腺がん Lung Adeno					5,602						485	465	5 20199
肺扁平上皮がん Lung Squamous				1,196					468			328	4412
肺小細胞がん Lung small cell				226					52		44	33	3 7
肺·気管 Lung,trachea				7	7,767					1,162		1,041	327161
乳房 Breast 女 Females			8,846					8.828				1,894	4 <mark>300 1</mark> 12
子宮頸部 Cervix uteri 女 Females	1,909 503								234	60 88			
子宮体部 Corpus uteri 女 Females				2,525					228		451	134	241
卵巣 Ovary 女 Females			751		164			633				214	106
前立腺 Prostate 男 Males	198				2,71	7						402	108 66

(1)(2)全がん協臨床病期分布

胃がん、子宮体がんは I 期症例の割合が高く比較的早期に 発見されていることがうかがえる。乳がんはⅡ期の症例が 多く、結腸がん・直腸がんはⅠ期~Ⅲ期の症例数がほぼ同 じであり、検診のさらなる普及により、より多くの症例が I 期で発見される体制が望まれる。

- (注)
- 1)対象は全がん協加盟32施設
   2)2004年から2007年に初回治療を行った症例を対象とし、15歳未満の小児がんおよび95歳以上の高齢者は 算定から除外
  - 3)良性腫瘍、上皮内がん、ステージ0は算定から除外 4)症例区分2(自施設診断、自施設治療)、症例区分3(他

  - 施設診断、自施設治療) ステージはUICCの臨床病期別 5)
  - 6)
  - 7
  - ヘノニンはいていいの「「「「「」」」」」。
    合計には病期不明例も含む
    消息判明率(追跡率)はいずれの部位も90%以上
    手術症例には、化学療法または放射線療法との併用
    療法、腹腔鏡手術を含む。食道、胃、
    第二、世界には、単常になりまたはなり、 8)
  - 結腸、直腸は内視鏡手術も手術治療に含めた。

(1)(2) Clinical stages in the designated hospitals of the Association of Clinical Cancer Centers

Stage I stomach and uterine cancers account for larger proportions, suggesting that those types of cancer are detected early. Stage II breast cancer accounted for a larger proportion, while stage I - III colon and rectal cancers accounted for comparable proportions. The screening system should be more widely used to facilitate early detection of stage I cancers.

- Note: 1) Data collected from 29 designated hospitals of the Association of Clinical Cancer Centers.
  - 2) Patients who underwent initial treatment between 2005 and 2006 were included. Those under 15 or over 95 were excluded.
  - 3) Benign tumors, carcinoma in situ (CIS), and stage 0 cases were excluded.
  - 4) Group II (diagnosed and treated at designated hospitals) and Group III (diagnosed at undesignated hospitals and treated at designated hospital) were included.
  - 5) Clinical stages as defined by the UICC
  - 6) Cases of unknown stages were also included in the "total."
  - 7) Follow-up rates were >95%.
  - 8) Surgeries include chemoradiotherapy and laparoscopic and thora-coscopic surgeries. Endoscopic therapy for esophagus, stomach, colon, and rectum were also included.

(2)

脜

Ai

子



(3)(4) 全がん協臨床病期5年相対生存率

主要部位の5年相対生存率は全体的に26ページの地域が ん登録の生存率より高く、胃がん、結腸がん、直腸がん、 子宮頸がんの5年相対生存率は70%以上、子宮体がんの5年 相対生存率は84.9%、乳がんの5年相対生存率は92.9%を示 し、特に胃がん、結腸がん、直腸がんにおいて臨床病期 I 期の生存率は97%を越え、乳がんは臨床病期 I 期、Ⅱ期と も生存率は97%以上となった。前立腺がんでは I 期、Ⅲ期 Ⅲ期とも100%の相対生存率を示し、前立腺がんは全症例 でも5年相対生存率は100%を示した。肝臓がん、肺がんは I 期の生存率、全病期の生存率ともに低い。肺がんの5年 相対生存率は全体で43.9%であったが、組織型に分けると、 腺がん53.5%、扁平上皮がん37.5%、小細胞がん18.7%で あった。症例数は腺がん、扁平上皮がん、小細胞がんの順 に多かった。手術症例に限れば肺がんの5年相対生存率は 77.2%であった。

学会の臓器別がん登録や個々の病院がホームページ等で公 表している生存率は、今回の手術症例の生存率に近いと考 えられる。全国がん(成人病)センター協議会加盟施設の 生存率は我が国のがん専門病院のデータであり、日本を代 表するものではないが、地域がん診療連携拠点病院が今後 目指すべき目標値であると考えられる。 (3)(4) 5-year relative survival rates by clinical stage in the designated hospitals of the Association of Clinical Cancer Centers

The 5-year relative survival rates for the major sites in the hospitals designated by the Association of Clinical Cancer Centers tended to be higher than those of the Regional Cancer Registry (See page 26). The 5-year relative survival rates of stomach, colon, rectum, and cervical cancers were over 70%. The 5-year relative survival rates of uterine and breast cancers were above 84.9 and 92.9%, respectively. Of note, the survival rates of stage I stomach, colon, and rectum cancers were above 97%. The survival rates of stage I and II breast cancers were above 97%. The relative survival rates of stage I, II, and III prostate cancer were 100%. The 5-year relative survival rates of all prostate cancer cases were 100%. The survival rates of liver and lung cancers of all stages were low. The 5-year relative survival rate of lung cancer was 43.9%: adenocarcinoma (53.5%), squamous carcinoma (37.5%), and small cell lung cancer (18.7%). The incidence of lung cancer was higher for adenocarcinoma, squamous carcinoma, and small cell lung cancer in this order. The 5-year relative survival rate of lung cancer patients who underwent surgery was 77.2%.

The cancer survival rates reported by site-specific cancer registries or by hospitals are similar to those of the surgical cases in the present study. Since the hospitals designated by the Association of Clinical Cancer Centers specialize in cancer care, the survival rates presented here are not representative data for all hospitals in Japan, but should be target values for the designated cancer care hospitals in Japan.

#### 全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における 10 年生存率 (1999~2002年診断例) 10-year Survival Rate in the Member Hospitals of the Association of Clinical Cancer Centers (Diagnosed in 1999-2002)

#### 臨床病期分布 男女計(全症例) Distribution of Clinical Stage, Both Sexes (All Cases) (1)



#### 臨床病期分布 男女計(手術症例のみ)Distribution of Clinical Stage, Both Sexes (Surgical Cases Only)

0	% 10	D%	20%	30%	40%	50%	(	60%	70%	80%		90%	1	00%
全がん All cancers		1	10,919	I	I		5,693		3,842	2	2,34	14	1,940	
			İ				İ		ш		ĪV		不明 Unkno	wn
食道 Esophagus	11:	2		2	202			18	30		57		47	
胃 Stomach				2,779				507	63	2	5	61	247	,
結腸 Colon		<u>412</u> <u>446</u> <u>424</u> <u>2</u>							292	2	60	)		
直腸 Rectum		303		315				325			169		2	27
肝臓 Liver		113			143			120					48	
肺·気管 Lung,trachea				1,954					368		460		101	71
乳房 Breast 女 Females		1,407					2	,124			4	68	<mark>119</mark> 12	22
子宮頸部 Cervix uteri 女 Females		544 128								60	21 32	2		
子宮体部 Corpus uteri 女 Females		497 53 1 <sup>-</sup>							116		14 32	:		
卵巣 Ovary 女 Females		1	33			42			102			38	13	
前立腺 Prostate 男 Males	26	26 256 135 <b>1</b>						48		46				

(1)(2)全がん協臨床病期分布 対象年度が異なるが、臨床病期分布については、28ページ の5年生存率における分布状況と大差を認めなかった。

- 1)対象は全がん協加盟32施設
   2)1999年から2002年に初回治療を行った症例を対象と (注)
  - 15歳未満の小児がんおよび95歳以上の高齢者は 算定から除外
  - <u>良性腫瘍</u>、上皮内がん、ステージ0は算定から除外 症例区分2(自施設診断、自施設治療)、症例区分3(他 施設診断、自施設治療) 3)
  - 4)
  - 5)
  - ステージはUICCの臨床病期別 合計には病期不明例も含む 6)
  - 7)消息判明率(追跡率)はいずれの部位も90%以上
  - 手術症例には、化学療法または放射線療法との併用 療法、腹腔鏡手術、胸腔鏡手術を含む。食道、胃、 8)
  - 結腸、直腸は内視鏡手術も手術治療に含めた。

(1)(2) Clinical stages in the designated hospitals of the Association of Clinical Cancer Centers

The clinical stage distributions showed no significant difference from the distributions of the 5-year survival rates (page 28), although the surveys were conducted in different years.

- Note: 1) Data collected from 29 designated hospitals of the Association of Clinical Cancer Centers.
  - 2) Patients who underwent initial treatment between 2005 and 2006 were included. Those under 15 or over 95 were excluded.
  - 3) Benign tumors, carcinoma in situ (CIS), and stage 0 cases were excluded.
  - 4) Group II (diagnosed and treated at designated hospitals) and Group III (diagnosed at undesignated hospitals and treated at designated hospital) were included.
  - 5) Clinical stages as defined by the UICC
  - 6) Cases of unknown stages were also included in the "total."
  - Follow-up rates were >95%.
  - 8) Surgeries include chemoradiotherapy and laparoscopic and thora-coscopic surgeries. Endoscopic therapy for esophagus, stomach, colon, and rectum were also included.

(2)



(4) 臨床病期別10年相対生存率 男女計(手術症例のみ)10-year Relative Survival Rate by Clinical Stage, Both Sexes (Surgical Cases Only)



#### (3)(4) 全がん協臨床病期10年相対生存率

全がんの10年相対生存率は、全症例で58.2%、I期86.3%、 Ⅱ期69.6%、Ⅲ期39.2%、Ⅳ期12.2%と5年相対生存率に比 べ約10%程度の低い値を示した。部位別に見ると、胃がん、 結腸がん、直腸がんでは、I期では94%以上を示し、5年 相対生存率とほぼ同程度の値を示した。全症例では、5年 相対生存率に比べ、4%~8%程度低い値であったが、70% 程度であった。子宮頚部がん、子宮体がんは、全症例で 73.6%、83.1%を示し、5年とほぼ同等の値であった。乳が んでは、I期であっても93.5%と6%程度の低値を示し、胃 がん等と異なっていた。一方、肝臓がんは I 期で29.3%、 全症例で15.3%、肺がんは、I 期で69.3%、全症例で33.2% と5年相対生存率より、さらに低い値を示した。

症例数は35,286例で、我が国において、これほど多く10年 相対生存率を示した事例はなく、大変貴重な情報であると 考えられる。 (3)(4) 10-year relative survival rates by clinical stage in the designated hospitals of the Association of Clinical Cancer Centers

The 10-year relative survival rates were as follows: 58.2% in all cases, 86.3% in stage I, 69.6% in stage II, 39.2% in stage III, and 12.2% in stage IV, lower by about 10% than the 5-year relative survival rates; stomach, colon, and rectal cancers in stage I: >94%, comparable with the 5-year relative survival rates; about 70% in all cases, lower by 4-8% than the 5-year relative survival rates; all cases of cervical and endometrial cancers: 73.6 and 83.1%, respectively, comparable with the 5-year relative survival rate; liver and lung cancers in stage I: 29.3 and 69.3%, respectively, and all cases of liver and lung cancers: 15.3 and 33.2%, respectively, lower than the 5-year relative survival rates.

This survey provides valuable information because the 10-year relative survival rates were determined using the largest samples size (35,286 cases) in Japan.

#### がん診療連携拠点病院における5年相対生存率 (2007年診断例) 5-year Relative Survival at the Designated Cancer Care Hospitals (Diagnosed in 2007)

# (1) 5年相対生存率 男女計(主要5部位)5-year Relative Survival, Both Sexes (5 major sites)



(2) 臨床病期(UICC TNM分類治療前ステージ)分布 男女計(主要5部位) Distribution of Clinical Stage (UICC TNM classification), Both Sexes (5 major sites)



■ I期 ■ II期 ■ III期 ■ IV期 ■ 不明など Unknown







累積がん罹患・死亡リスク Cumulative Cancer Incidence/Mortality Risk

#### (1) 年齢階級別罹患リスク(2011年罹患・死亡データに基づく) Age-specific Incidence Risk (Based on Incidence and Mortality Data in 2011)

部位 Site	性別 Sex	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	生涯	何人に1人か
全がん All cancers	男性 Males	1.0	2.5	7.8	21.3	41.3	61.8	2
C00-C96	女性 Females	1.9	5.5	10.9	18.5	28.6	46.0	2
食道 Esophagus	男性 Males	0.0	0.0	0.3	1.0	1.8	2.4	43
C15	女性 Females	0.0	0.0	0.1	0.2	0.3	0.4	227
胃 Stomach	男性 Males	0.1	0.3	1.3	3.8	7.7	11.4	9
C16	女性 Females	0.1	0.3	0.7	1.5	3.0	5.7	18
結腸 Colon	男性 Males	0.1	0.2	0.7	2.0	3.8	5.6	18
C18	女性 Females	0.0	0.2	0.6	1.4	2.7	5.2	19
直腸 Rectum	男性 Males	0.0	0.2	0.7	1.6	2.6	3.4	29
C19-C20	女性 Females	0.0	0.1	0.4	0.7	1.2	1.9	53
大腸 Colon/rectum	男性 Males	0.1	0.4	1.4	3.5	6.3	9.0	11
C18-C20	女性 Females	0.1	0.3	1.0	2.1	3.9	7.1	14
肝臓 Liver	男性 Males	0.0	0.1	0.4	1.2	2.5	3.7	27
C22	女性 Females	0.0	0.0	0.1	0.4	1.0	2.0	50
胆のう・胆管 Gallbladder and bile ducts	男性 Males	0.0	0.0	0.1	0.4	0.9	1.7	59
C23-C24	女性 Females	0.0	0.0	0.1	0.2	0.6	1.7	58
膵臓 Pancreas	男性 Males	0.0	0.1	0.3	0.7	1.5	2.2	45
C25	女性 Females	0.0	0.0	0.2	0.5	1.0	2.2	45
肺 Lung, trachea	男性 Males	0.0	0.2	0.8	2.8	6.0	9.9	10
C33-C34	女性 Females	0.0	0.2	0.5	1.4	2.8	4.8	21
乳房(女性) Breast(Females) C50	女性 Females	0.5	2.2	4.0	5.9	7.2	8.6	12
子宮 Uterus C53-C55	女性 Females	0.4	1.0	1.8	2.3	2.8	3.2	31
子宮頸部 Cervix uteri C53	女性 Females	0.3	0.7	0.9	1.0	1.2	1.4	74
子宮体部 Corpus uteri C54	女性 Females	0.1	0.4	0.9	1.3	1.5	1.7	58
卵巣 Ovary C56	女性 Females	0.1	0.3	0.5	0.8	0.9	1.2	87
前立腺 Prostate C61	男性 Males	0.0	0.0	0.5	2.8	6.9	9.8	10
悪性リンパ腫 Malignant lymphom	男性 Males	0.1	0.2	0.4	0.8	1.2	1.7	57
C81-C85 C96	女性 Females	0.1	0.1	0.3	0.6	0.9	1.4	70
白血病 Leukemia	男性 Males	0.2	0.2	0.3	0.5	0.7	0.9	108
C91-C95	女性 Females	0.1	0.2	0.2	0.3	0.5	0.7	142

◈ 男性、女性ともに、おおよそ2人に1人が一生のうちにがんと診断される(2011年の罹患・死亡データに 基づく)。

- ◈男性ではおおよそ4人に1人、女性ではおおよそ6人に1人ががんで死亡する(2014年の死亡データに基づく)。
- One in two Japanese males and one in two Japanese females will be diagnosed with cancer during their life-time (based on incidence and mortality data in 2011).
- One in four Japanese males and one in six Japanese females will die from cancer. (based on mortality data in 2014).

Source : Estimated using the method by Wum LM et al., Estimating lifetime and age-conditional probabilities of developing cancer, Lifetime Data Anal., 4 : 169–186, 1998

資料:加茂憲一ら、日本におけるがん生涯リスク評価、厚生の指標、52:21-26,2005; Wum LM et al., Estimating lifetime and age-conditional probabilities of developing cancer, Lifetime Data Anal., 4:169-186, 1998の手法を用いて計算した。

# (2) 年齢階級別死亡リスク(2014年死亡データに基づく)Age-specific Mortality Risk (Based on Mortality Data in 2014)

部位 Site	性別 Sex	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	生涯	何人に 1人か
全がん All cancers	男性 Males	0.2	0.6	2.0	6.6	15.1	25.4	4
C00-C96	女性 Females	0.2	0.7	1.9	4.3	8.6	15.6	6
食道 Esophagus	男性 Males	0.0	0.0	0.1	0.4	0.8	1.1	91
C15	女性 Females	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	489
胃 Stomach	男性 Males	0.0	0.1	0.3	0.9	2.2	3.7	27
C16	女性 Females	0.0	0.1	0.2	0.4	0.8	1.7	60
結腸 Colon	男性 Males	0.0	0.0	0.2	0.5	1.1	1.9	52
C18	女性 Females	0.0	0.0	0.2	0.4	0.8	1.7	59
直腸 Rectum	男性 Males	0.0	0.0	0.1	0.4	0.8	1.1	90
C19-C20	女性 Females	0.0	0.0	0.1	0.2	0.3	0.6	175
大腸 Colon/rectum	男性 Males	0.0	0.1	0.3	0.9	1.9	3.0	33
C18-C20	女性 Females	0.0	0.1	0.2	0.6	1.2	2.3	44
肝臓 Liver	男性 Males	0.0	0.0	0.2	0.6	1.4	2.2	45
C22	女性 Females	0.0	0.0	0.0	0.2	0.5	1.1	92
胆のう・胆管 Gallbladder and bile ducts	男性 Males	0.0	0.0	0.0	0.2	0.6	1.1	94
23-C24	女性 Females	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	0.9	109
膵臓 Pancreas	男性 Males	0.0	0.0	0.2	0.6	1.3	1.9	53
C25	女性 Females	0.0	0.0	0.1	0.4	0.9	1.6	63
肺 Lung, trachea	男性 Males	0.0	0.1	0.4	1.5	3.6	6.1	16
C33-C34	女性 Females	0.0	0.0	0.2	0.5	1.1	2.2	46
乳房(女性) Breast(Females) C50	女性 Females	0.0	0.2	0.5	0.8	1.1	1.4	70
子宮 Uterus C53-C55	女性 Females	0.0	0.1	0.2	0.4	0.5	0.7	143
子宮頸部 Cervix uteri C53	女性 Females	0.0	0.1	0.1	0.2	0.3	0.3	312
子宮体部 Corpus uteri C54	女性 Females	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.2	409
卵巣 Ovary C56	女性 Females	0.0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	188
前立腺 Prostate C61	男性 Males	0.0	0.0	0.0	0.1	0.5	1.4	73
甲状腺 Thyroid	男性 Males	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1503
C73	女性 Females	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	817
悪性リンパ腫 Malignant lymphoma	男性 Males	0.0	0.0	0.1	0.2	0.4	0.8	132
C81-C85 C96	女性 Females	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.5	189
白血病 Leukemia	男性 Males	0.0	0.1	0.1	0.2	0.4	0.6	174
C91-C95	女性 Females	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.4	279

2011年の罹患データに基づいて累積生涯がん罹患リスク を推定すると、男性で62%、女性で46%、つまり男性、女 性ともにおおよそ2人に1人が一生のうちにがんと診断さ れると推定される。同様に2014年の死亡データに基づいて 累積生涯がん死亡リスクを推定すると、男性で25%、女性 で16%、つまり男性でおおよそ4人に1人、女性でおおよ そ6人に1人ががんで死亡すると推定される。

男女の比較では、生涯リスクは罹患、死亡とも男性の方 が高い。50歳代までは女性の方が男性よりがん罹患リスク が高いが、60歳代以上では男性の方が高い。がん死亡リス クでは40歳代までは女性が高く、50歳代以上では男性の方 が高い。これは女性の中年層で乳がんリスクが高いことが 主な原因である。

69歳までの罹患リスクが高い部位は、男性では胃、大 腸、肺、女性では乳房、大腸、子宮である。69歳までの死 亡リスクが高い部位は、男性では肺、胃、大腸、女性では 乳房、大腸、胃、肺である。 The cumulative lifetime risk of cancer incidence, estimated based on cancer incidence data in 2011, is 62% for males and 46% for females. In other words, one in two Japanese males and one in two Japanese females are estimated to be diagnosed with cancer during their lifetime. Similarly, the cumulative lifetime risk of cancer mortality, estimated based on data in 2014, is 25% for males and 16% for females, i.e. one in four Japanese males and one in six Japanese females are estimated to die from cancer.

Lifetime risks of cancer incidence and mortality are both higher for males than for females. The cumulative cancer incidence risk by 60 years old is higher for females, while it is higher for males for older age groups. The cumulative cancer mortality risk is higher for females by 49 years old, while it is higher for males for older age groups. The main reason for this pattern is high risk of breast cancer for middle aged females.

The cancer sites with high incidence risk by 69 years old are: stomach, colon/rectum, lung for males; breast, colon/rectum, and uterus for females. The cancer sites with high mortality risk by 69 years old are : lung, stomach, colon/rectum for males; breast, colon/rec-tum, stomach, and lung for females. がん診療連携拠点病院における20歳未満のがんの内訳(2013年)
 Registered cancer cases under age 20 at the Designated Cancer Care Hospitals (2013)



#### (2) 地域がん登録全国推計値における40歳未満のがん罹患数の部位内訳(2007 ~ 2011年) Cancer incidence under age 40 in the population-based cancer registry (2007-2011)





(3) 小児がん(0~14歳) 患者のサバイバー 5年相対生存率(2002~2006年追跡例 男女計)
 Conditional 5-year relative survival rate among childhood (aged 0-14 yrs.)
 cancer patients (2002-2006 follow-up; males and females)



(4) AYA世代がん(15~29歳) 患者のサバイバー 5年相対生存率(2002~2006年追跡例 男女計)
 Conditional 5-year relative survival rate among adolescent and young adult (aged 15-29 yrs.)
 cancer patients (2002-2006 follow-up; males and females)



サバイバー生存率:診断から一定年数後生存している者(サバイバー)の、その後の生存率。英語では「conditional survival rate」(条 件付き生存率)と表現される。例えば1年サバイバーの5年生存率は、診断から1年後に生存している者に限って算 出した、その後の5年生存率(診断から合計6年後)。

Conditioanl survival rate: the probability of surviving a given additional years, given that the person has already survived a certain years.

## 主要死因別粗死亡率年次推移(1947年~2014年)

Trends in Crude Mortality Rate for Leading Causes of Death (1947-2014)



- ◈ 第2次世界大戦後、結核、肺炎などの感染症の死亡率は減少し、がん、心疾患などの生活習慣病の死亡率 が増加。
- ※近年は人口の高齢化の影響により、肺炎が死因の第3位。
- ◈ がんは1981年から死因の第1位で、最近では総死亡の約3割を占める。

After the end of the World War II, the mortality of infectious diseases such as tuberculosis and pneumonia decreased, while the mortality of life-style diseases such as cancer and heart diseases increased.

- In recent years, pneumonia is the 3rd leading cause of death, reflecting population aging.
- Cancer has been the leading cause of death since 1981, accounting for 30% of all deaths recently.

わが国における死亡率の年次推移を死因別にみると、明 治から昭和初期まで多かった結核、肺炎などの感染症が第 2次世界大戦後急速に減少し、かわっていわゆる生活習慣 病(がん、心疾患、脳血管疾患など)による死亡が上位を 占めるようになった。

近年は人口の高齢化の影響により、肺炎が脳血管疾患に かわり死因の第3位になった。

がん(悪性新生物)は昭和56(1981)年から死因の第1 位を占め、平成26(2014)年には36万8,103人、人口10万 対死亡率293.5であり、総死亡の28.9%を占めている。

1990年代半ばの急激な死亡率の増加および減少は、1995 年の国際疾病分類(ICD)第9版から第10版への変更の影 響である。

Until the middle of this century, deaths caused by infectious diseases such as pneumonia, tuberculosis and gastroenteritis pre-

vailed in Japan.

However, since the end of the World War II, these diseases have rapidly decreased and have been replaced by so-called life style related diseases such as malignant neoplasms (cancer), heart diseases and cerebrovascular diseases.

In recent years, pneumonia replaced corebrovascular diseases as the 3rd leading cause of death, reflecting population aging.

Cancer ranks first in the causes of deaths since 1981. The number of cancer deaths in 2014 was 368,103, and the death rate per 100,000 was 293.5, accounting for 28.9% of the total number of deaths.

The sudden increases and decreases in mortality rate observed in the middle of 1990's were the artifact caused by the change from ICD version 9 to 10 in 1995.

#### 主要死因別年齡調整死亡率年次推移 (1947年~2014年) Trends in Age-adjusted Mortality Rate for Leading Causes of Death (1947-2014)



♦ がん、心疾患、脳血管疾患の3大死因の年齢調整死亡率(人口の高齢化の影響を除いた死亡率)は近年減 少傾向にある。

Age-adjusted mortality rate is decreasing for the three leading causes of death in Japan: cancer, heart diseas-es, and cerebrovascular diseases.

年齢調整死亡率の戦後の年次推移を死因別にみると、37 ページの死亡率では近年増加傾向にあるがん、心疾患、肺 炎などが、人口の高齢化の影響を取り除くとむしろ減少傾 向であることがわかる。粗死亡率で減少傾向にある脳血管 疾患は、年齢調整死亡率ではより急激な減少を示してい る。年齢階級別の主要死因でみた場合、がんは40歳~89歳 で死因1位である。

Cancer, heart diseases, and pneumonia, which appeared to be increasing in recent crude mortality rate (Page 37), showed a decreasing trend after age-adjustment. This suggests that the increase in crude mortality rate may have been caused by the aging of the population. The decrease in the mortality of cerebrovascular diseases became more rapid after age-adjustment. Regarding the age-specific causes of death, cancer was the leading cause of death among 40-89 years age groups in 2014.

(注) 総数の率は右軸に、主要死因別の率は左軸に示している。 Note: Total death rate is shown on the right axis and the rate for leading causes of death on the left.

## 6 部位別がん粗死亡率年次推移 (1965年~2014年) Trends in Site-specific Crude Mortality Rate (1965-2014)



For females, the proportion of lung, pancreas, colon/rectum, and breast increased, while the proportion of stomach de-creased.

1960年代からのがん死亡動向を粗死亡率で見ると、がん 全体の死亡率は男女とも一貫した増加傾向にある。部位の 内訳では、男性では肺がん、膵臓がん、大腸がん、前立腺 がんの割合が増加し、女性では肺がん、膵臓がん、大腸が ん、乳がんの割合が増加した。一方胃がんは、1960年代に は全がん死亡率のうち男性で約5割、女性で約4割を占め ていたが、その割合は減少の一途をたどり、2014年には男 性で14%、女性で11%程度まで減少した。 The crude mortality rate of cancer has been continuously increasing for both sexes since 1960's. In terms of site distribution, the proportion of lung, pancreas, colon/rectum, and prostate increased for males, and the proportion of lung, pancreas, colon/ rectum, and breast increased for females. Stomach cancer mortality rate, which accounted for approximately 50% and 40% of all cancer mortality rate for males and females, respectively, continuously decreased to 14% and 11%, respectively, in 2014.

資料:国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(http://ganjoho.jp/reg\_stat/statistics/dl/index.html) Source : Cancer Registry and Statistics. Cancer Information Service, National Cancer Center, Japan. (http://ganjoho.jp/en/professional/statistics/table\_ download.html)

# 17 がん年齢調整死亡率年次推移 (1958年~2014年) Trends in Age-adjusted Mortality Rate (1958-2014)

#### (1) 全がん All Cancers





Age-adjusted cancer mortality rate for decreasing for both males and females since late 1990's.

<b>When restricted to age group unde 75, age-adjusted cancer mortality rate is decreasing for both males and</b>
females since late 1960's
Age-adjusted mortality rate is recently increasing for : [males] pancreas
[females] pancreas, uterus

decreasing for : [males] esophagus, stomach, rectum, liver, gallbladder, lung, prostate, thyroid, leukemia [females] esophagus, stomach, rectum, liver, gallbladder,

#### (1) 全がん

全がんの年齢調整死亡率(全年齢)を性別にみると、男 性では、1980年代後半まで増加し、1990年代半ばにピー クを迎え、1990年代後半からは減少傾向にある。女性で は1960年代後半から減少傾向が続いている。男女計では、 1960年代後半から1990年代前半まで緩やかに減少し、1990 年代後半から減少傾向が明らかになっている。年齢階級を 75歳未満に限った年齢調整死亡率は、男女とも全年齢の場 合より減少傾向が明らかである。

#### (1) All cancers

ovary, thyroid, leukemia

Age-adjusted rates of cancer mortality (all ages) for males increased until late 1980's, reached a peak in middle 1990's, and has been decreasing since late 1990's. For females, age-adjusted cancer mortality has been decreasing since late 1960's. For both sexes, age-adjusted cancer mortality slowly decreased from 1960's to early 1990's and has been clearly decreasing since late 1990's.

When restricted to age groups under 75, the decreasing trend in age-adjusted cancer mortality was clearer for both males and females, as compared with the case including all-age.

資料: 増減の判断は、An updated report on the trends in cancer incidence and mortality in Japan, 1958-2013. Katanoda K, Hori M, Matsuda T, Shibata A, Nishino Y, Hattori M, Soda M, Ioka A, Sobue T, Nishimoto H. Jpn J Clin Oncol., 45 (4): 390-401, 2015の手法を用いて行った。 Source: The judgment of increase or decrease was done using the method described in An updated report on the trends in cancer incidence and mortality in Japan, 1958-2013. Katanoda K, Hori M, Matsuda T, Shibata A, Nishino Y, Hattori M, Soda M, Ioka A, Sobue T, Nishimoto H. Jpn J Clin Oncol., 45 (4): 390-401, 2015.



#### 部位別(主要部位)Site-specific (Major Sites) (2) 男性 Males



#### (2)(3) 部位別

主要部位の年齢調整死亡率の増減傾向をみると、近年ま で明らかな増加傾向が続いていた女性乳がんは横ばいに転 じた。一方、近年横ばいだった子宮がんは増加に転じてい る。男女とも年齢調整死亡率が近年減少している部位は、 胃、直腸、および肝臓である。胃がんの減少は1960年代か ら続く顕著な減少で、肝臓がんは近年の減少が顕著である。 男性では肺および前立腺で減少傾向がみられる。

その他の部位では、男女とも膵臓がんで緩やかな増加傾 向がみられる。食道、胆のう・胆管、甲状腺、および白血 病では男女とも近年減少傾向にある。

#### (2) (3) Site specific

1970

0.

1960

Among major cancer sites, female breast cancer had showed a clear increasing trend until recently in age-adjusted mortality rate, but it reached a plateau. On the other hand, cancer of the uterus stopped its decreasing trend and started to increase. The cancer sites with recently decreasing trend in age-adjusted mortality rate for both sexes were stomach, rectum, and liver. Among them stomach cancer showed a clear contiguous decrease from 1960s, and the decrease in liver cancer was recently clear. A decrease in lung and prostate cancers were seen for males.

1980

1990

2000

2010 2015

年 Year

女性 Females

For other cancer sites, a slow increase has seen in pancreas cancer. Esophagus, gallbladder, thyroid, and leukaemia showed a decreasing trend.

2010 2015

年 Year

#### 年齢階級別がん死亡率推移 (1965年、1990年、2014年) Trends in Age-specific Mortality Rate (1965, 1990, 2014)

#### (1) 全がん All cancers



1965年、1990年、2014年の死亡率の変化をみると、全が んでは男女とも50歳~60歳代の死亡率は減少しているが、 高齢者(男性80歳以上、女性85歳以上)では増加してい る。80歳以上のがん死亡率の増加は診断精度の向上も一つ の原因だと考えられる。

部位別の動向は、

[食道がん] 男性では一貫した傾向はなく、女性では65 歳~84歳で死亡率が減少している。

[**胃がん**] 男女ともほぼすべての年齢階級で死亡率が減少している。

#### (2) 食道がん Esophagus



0~ 5~ 10~15~20~25~30~35~40~45~50~55~60~65~70~75~80~85~ 歲 age

Comparisons among the age-specific mortality rates in 1965, 1990, and 2014 revealed that cancer mortality rate for 50-69 years old decreased, while that for the elderly (males 80+ and females 85+ years old) increased. The improved diagnosis of cancer in elderly people may have contributed to the increase.

Site-specific trends are as follows.

**[Esophagus]** No clear pattern was seen for males, and a decrease in female mortality rate for ages 65-84 years was seen. **[Stomach]** A decrease in mortality rate was seen for almost all age groups among both sexes.

資料:国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(http://ganjoho.jp/reg\_stat/statistics/dl/index.html)

Source : Cancer Registry and Statistics. Cancer Information Service, National Cancer Center, Japan. (http://ganjobo.jp/en/professional/statistics/table\_ download.html)



[大腸(結腸、直腸)がん] 結腸では男女とも1965年から 1990年にかけて中高年での死亡率増加が目立つ。

[**肝臓がん**] 男性において1990年の60歳代および2014年の 80歳代にピークがある。これらは生まれた年で言うと1930 年代前半に対応しており、この年代に生まれた人にはC型 肝炎ウィルスの感染者割合が多いことが知られている。 [**胆のう・胆管がん**] 男女とも1965年から1990年にかけて 中高年での死亡率増加が目立つ。 [Colon/rectum] A clear increase in mortality rate for colon cancer was seen between 1965 and 1990 among middle and old age groups for both males and females.

0~ 5~ 10~15~20~25~30~35~40~45~50~55~60~65~70~75~80~85~

[Liver] A peak in mortality rate was seen among males aged 60-69 years in 1990 and males aged 80-89 in 2014. These generations correspond to the early 1930's birth year cohort, and have been reported to have a high prevalence of hepatitis C virus infection.

[Gallbladder and bile ducts] An increase in mortality rate between 1965 and 1990 was clear among middle and old age group for both males and females.



大腸(結腸+直腸)がん Colon/rectum

(6)

60

40

20

0

# 年次推移Trend in Cancer Statistics

歳 age



[膵臓がん] 男女とも1965年から1990年にかけて中高年で の死亡率増加が目立つ。

[肺がん] 男性では1965年から1990年にかけて中高年で、 1990年以降に80歳以上で死亡率が大きく増加している。女 性では1965年から1990年にかけて65歳以上で死亡率が増加し ている。男性の70歳代では2014年に死亡率がやや減少して いる。これは生まれた年で言うと1930年代後半に対応してお り、この時代に生まれた人はその前後の年代に生まれた人に 比べて生涯喫煙率(一生のうちに喫煙習慣を持ったことの ある人の割合)が低いことが知られている。

[前立腺がん] 中高年での死亡率増加が目立つ。

[乳がん(女性)] 35歳以上の死亡率が増加しており、特 に50歳~60歳代前半の増加が目立つ。

(10) 肺がん Lung





[Pancreas] An increase in mortality rate between 1965 and 1990 was clear among middle and old age group for both males and females.

[Lung] For males, a rapid increase in mortality rate was seen among middle and old age group between 1965 and 1990, and among ages 80 or older after 1990. For females, an increase was seen among ages 65 or older between 1965 and 1990. A small drop in mortality rate was seen among males aged 70-79 in 2014. This generation corresponds to the late 1930's birth cohort, and reportedly has a low prevalence of ever-smoking.

[Prostate] A clear increase in mortality rate was seen among middle and old age groups.

[Breast (females)] An increase in mortality rate among females aged 35 years or older was seen. Especially, the increase among ages 50-64 was rapid.

(9)



[子宮がん] 80歳以上を除く中高年で死亡率が大きく減少 しているが、30歳~50歳代で微増している。

[**卵巣がん**] 1965年から1990年にかけて中高年での死亡率 増加が目立つ。

[悪性リンパ腫] 男女とも60歳以上で1965年から1990年に かけて増加し、75歳以上では1990年以降増加している。

[白血病] 他の部位に比べて30歳未満の若年層の死亡率が 高いが、男女とも若年層の死亡率は減少している。一方、 70歳以上では死亡率は増加している。

#### (14) 卵巣がん Ovary



移 Trend in Cancer Statistics

年

次

推

**[Uterus]** A clear decrease in mortality rate was seen among middle and old age groups (except 80+ years old), while a slight increase was seen among 30-50 age groups.

**[Ovary]** A clear increase in mortality rate was seen between 1965 and 1990 among middle and old age groups.

[Malignant Lymphoma] An increase in mortality rate for both males and females was seen among 60 years or older age groups between 1965 and 1990, and among 75 years or older age groups after 1990.

**[Leukemia]** Mortality rate was higher among young age groups (under 30 years old) as compared with other cancer sites, but a decreasing was seen for those age groups. On the other hand, an increase was seen among 70 years or older age groups.

#### 部位別がん粗罹患率推移 (1980年~2011年) Trends in Site-specific Crude Incidence Rate (1980-2011)



- ◆ 1980年代以降、がんの罹患率(粗罹患率)は男女とも増加し続けている。
   ◆ 男性では、肺がん、大腸がん、前立腺がんの割合が増加し、胃がんの割合が減少。
- ◈ 女性では、肺がん、大腸がん、乳がんの割合が増加し、胃がんの割合が減少。
- The crude incidence rate of cancer has been continuously increasing since 1980's.
- For males, the proportion of lung, colon/rectum, and prostate increased, while the proportion of stomach decreased.
- For females, the proportion of lung, colon/rectum and breast increased, while the proportion of stomach decreased.

1980年代からのがん罹患動向を粗罹患率でみると、がん 全体の罹患率は男女とも一貫した増加傾向にある。部位の 内訳では、男性では肺がん、大腸がん、前立腺がんの割合 が増加し、女性では肺がん、大腸がん、乳がんの割合が増 加した。一方、胃がんは1980年代には全がん罹患率のうち 男性で36%、女性で26%を占めていたが、その割合は減少 の一途をたどり、2011年には男性18%、女性12%程度まで 減少した。

The crude incidence rate of cancer has been continuously increasing for both sexes since 1980's. In terms of site distribution, the proportion of lung, colon/rectum, and prostate increased for males, and the proportion of lung, colon/rectum, and breast increased for females. Stomach cancer incidence rate, which accounted for approximately 36% and 26% of all cancer incidence rate for males and females, respectively, continuously decreased to 18% and 12% for males and females respectively in 2011.

Source : Cancer Registry and Statistics. Cancer Information Service, National Cancer Center, Japan. (http://ganjoho.jp/en/professional/statistics/table\_ download.html)

資料:国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(http://ganjoho.jp/reg\_stat/statistics/dl/index.html)
# 20 がん年齢調整罹患率年次推移 (1985年~2010年) Trends in Age-adjusted Incidence Rate (1985-2010)

# (1) 全がん All Cancers



 ◆ 全がんの年齢調整罹患率は、男女とも1985年以降増加傾向にある。
◆ 年齢調整罹患率が近年増加している部位:[男性] 食道、膵臓、前立腺、甲状腺、悪性リンパ腫 [女性] 食道、膵臓、肺、乳房、子宮、卵巣、甲状腺、 悪性リンパ腫
減少している部位:[男性] 胃、肝臓、胆のう・胆管、白血病 [女性] 胃、肝臓、胆のう・胆管
◆ Age-adjusted cancer incidence rate for both males and females increased since 1985.
◆ Age-adjusted mortality rate recently increasing for : [males] esophagus, pancreas, prostate, thyroid, malignant lymphoma [females] esophagus, pancreas, lung, breast, uterus,

ovary, thyroid, malignant lymphoma decreasing for : [males] stomach, liver, gallbladder and bile ducts, and leukemia [females] stomach, liver, gallbladder and bile ducts

## (1) 全部位

全がんの年齢調整罹患率(全年齢)を性別にみると、男 女とも1985年以降から増加傾向にある。年齢階級を75歳未 満に限った年齢調整罹患率でも同様である。ただし、男性 の全年齢で前立腺がんを除くと、年齢調整がん罹患率は 1990年代半ばから2000年代半ばまで減少傾向で、その後は 横ばい傾向である。

## (1) All cancers

Age-adjusted cancer incidence rates (all ages) have been increasing for males and females since 1985. When re-stricted to age under 75, a similar tendency has been observed. However, all cancer for males decreased between mid 1990's and mid 2000's, and stabled thereafter, when prostate cancer was excluded.

注)2015 年版より 3 県地域がん登録のがん罹患データ(1985-2010 年)に基づき作成 山形、福井および長崎の 3 県(長期的に精度が高く安定している地域がん登録)の罹患データ実測値 NOTE :According to data from cancer registries in 3 prefectures(Yamagata, Fukui, and Nagasaki)

資料: 増減の判断は、Qiu D et al, A Joinpoint regression analysis of long-term trends in cancer mortality in Japan (1958-2004), International Journal of Cancer 124: 443-448, 2009の手法を用いて行った。

Source : The judgment of increase or decrease was done using the method described in Qiu D et al, A Joinpoint regression analysis of long-term trends in cancer mortality in Japan (1958–2004), International Journal of Cancer 124 : 443–448, 2009



#### 部位別(主要部位)Site-specific (Major Sites) (2)

男性 Males



Breast cancer in 1975-2002 includes carcinoma in situ.





#### (2) (3) Site-specific

Among major cancer sites, an increasing trend was seen in prostate for males, and lung, breast, uterus, and ovary showed an increasing trend for females, of which increase in lung, breast, and ovary have been continuing since 1985, while increase in uterus started in mid 1990s. For both sexes, cancer of the liver has been decreasing.

For other cancer sites, an increasing trend was seen in esophagus, pancreas, thyroid cancer and malignant lymphoma, and a decreasing trend was seen in gallbladder cancer, since 1985 for both sexes.

#### (2)(3) 部位別

1990

1 1985

主要部位の年齢調整罹患率の増減傾向をみると、男性の前 立腺、女性の肺、乳房、子宮、および卵巣がんで増加傾向が みられる。うち肺、乳房、および卵巣がんの増加は1985年か ら続いており、子宮は1990年代半ばから増加している。男女 とも胃、肝臓で近年年齢調整罹患率が減少している。

1995

2000

2005

2010

年 Year

その他の部位では、男女とも食道、膵臓、甲状腺および悪 性リンパ腫で増加傾向が、胆のう・胆管で減少傾向が1985年 以降みられる。



# (1) 全がん All cancers



1980年と2011年の全がん罹患率の変化をみると、男性で は60歳以上での罹患率増加、女性では80歳以上で増加して いるのを除いて罹患率の大きな変化はない。80歳以上のが ん罹患率の増加は診断精度の向上も一つの原因だと考えら れる。

部位別の動向は、

[食道がん] 男性では50~84歳で罹患率が増加、女性では 70-79歳で減少しているのを除いて大きな変化はない。 [胃がん] 男女とも85歳以上を除いて中高年で罹患率が減 少している。

Comparisons between the age-specific incidence rates in 1980 and 2011 revealed that there was no clear change except an in-

# (2) 食道がん Esophagus



200-150-100-50-0-0-5- 10~15~20~25~30~35~40~45~50~55~60~65~70~75~80~85~ 蕨 age

crease in cancer incidence rate for males aged 60 years or older and for females aged 80 year or older. The improved diagnosis of cancer may have contributed to the increase among the elderly.

Site-specific trends are as follows.

**[Esophagus]** For males, the incidence rate increased among 50-84 age groups. For females, no clear change was seen except for decrease among 70-79 age groups.

**[Stomach]** A clear decrease in incidence rate was seen among middle and old age groups for both males and females, except for 85+ years age group.

資料:国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(http://ganjoho.jp/reg\_stat/statistics/dl/index.html)

Source : Cancer Registry and Statistics. Cancer Information Service, National Cancer Center, Japan. (http://ganjoho.jp/en/professional/statistics/table\_ download.html)



[大腸(結腸、直腸)がん] 男女とも中高年の罹患率は増加している。

[**肝臓がん**] 男女とも高齢者での罹患率増加が目立つ。男 性では2011年の80歳代前半に罹患率のピークがある。これ は生まれた年で言うと1930年代前半に対応しており、C型 肝炎ウィルスの感染者割合が多い世代と一致している。

[胆のう・胆管がん] 男女とも80歳以上で罹患率が増加している一方、女性では50歳代後半~70歳代前半で罹患率が 減少している。



# (6) 大腸(結腸+直腸)がん Colon/rectum

**[Colon/rectum]** An increase in incidence rate was seen among almost all age groups for both males and females.

歳 age

[Liver] A clear increase in incidence rate was seen among old age groups for both sexes. A peak in incidence rate was seen among males aged 80-84 in 2011. This generation corresponds to the early 1930's birth year cohort, and reportedly has a high prevalence of hepatitis C virus infection.

[Gallbladder and Bile Ducts] An increase in incidence rate was seen among 80 or older age groups for both males and females, while a decrease was seen among 50-74 age groups for females.



# (9) 膵臓がん Pancreas

200

100

0

[膵臓がん] 男女とも75歳以上での罹患率が増加している。 [肺がん] 男女とも70歳以上で罹患率が増加している。 [前立腺がん] 60歳以上で罹患率が大きく増加している。 [乳がん(女性)] 中高年、特に40歳代後半~60歳代前半 で罹患率が大きく増加し、2011年にはこの年齢層の罹患率 のピークが明らかになっている。

0~ 5~ 10~15~20~25~30~35~40~45~50~55~60~65~70~75~80~85~

歳 age

(10) 肺がん Lung



# (12) 乳がん (女性) Breast (females)



**[Pancreas]** An increase in incidence rate was seen among 75 year or older age groups for both males and females.

[Lung] An increase in incidence rate was seen among 70 year or older age groups for both males and females.

**[Prostate]** A clear increase in incidence rate was seen among males aged 60 years or older.

[Breast (females)] A rapid increase in incidence rate was seen among middle and old age groups, especially among 45-64 years old. In 2011, a clear peak in incidence rate was seen in this age group.



[子宮がん] 30歳代を境に、20歳~50歳代の若い年齢層で 罹患率が増加し、60歳~80歳代前半の中高齢層で罹患率が 減少している。これらの変化は主に子宮頸がんの罹患率の 変化を反映している。グラフでは示されていないが、子宮 体がんの罹患率は中高年で近年増加傾向にある。

[卵巣がん] 15歳以上のすべての年齢階級で罹患率が増加 しており、特に50歳代前半の罹患率の増加が目立つ。

[悪性リンパ腫] 男女とも中高年の罹患率は増加している。 [白血病] 他の部位に比べて14歳未満で罹患率が高い。男 女とも70歳以上では罹患率が増加している。

[Uterus] An increase in incidence rate was seen among younger age groups (20-50 years old), while a decrease was seen among older age groups (60-84 years old). These changes mainly

# (14) 卵巣がん Ovarv





reflect trends in incidence rate for cervix uteri. The incidence rate for corpus uteri has been increasing among middle and old age groups (data not shown).

[Ovary] An increase in incidence rate was seen among females aged 15 years or older, among whom those aged 50-54 years old showed a clear increase.

[Malignant lymphoma] An increase in incidence rate was seen among middle and old age groups for both sexes.

[Leukemia] Incidence rates are higher among children (under 15 years old) as compared with other cancer sites. An increase was seen among 70 years or older age groups.

## 222 地域がん登録における5年生存率推移(1993-1996年、1997-1999年、2000-2002年、2003-2005年診断例) Trends in 5-year Survival Rate, Data from Population-based Cancer Registry (Diagnosed in 1993-1996, 1997-1999, 2000-2002, 2003-2005)

(1) 5年相対生存率 男女計(主要部位)5-year Relative Survival, Both Sexes (major sites)



注) 1) 1993-2002 年は宮城、山形、新潟、福井、大阪および長崎の 6 府県、2003-2005 年はこれらに滋賀を加えた 7 府県のがん登録データに基づく。

2) 死亡票のみの患者、第2がん以降、悪性以外、上皮内がん(大腸の粘膜がんを含む)、年齢不詳および100歳以上、または遡り 調査患者を除く。

Note :1) Data were obtained from six registries (Miyagi, Yamagata, Niigata, Fukui, Osaka, and Nagasaki prefectures) for 1993-2002, and from these six registries plus Shiga for 2003-2005.

2) Excluding the following cases: death certificate only, secondary cancers or later, non-malignant, carcinoma in situ (including mucosal cancers

of the large bowel), age unknown or over 100, or detected by follow-back inquiry.

# がん年齢調整死亡率・罹患率年次推移

# Trends in Cancer Statistics : Age-adjusted Mortality/Incidence Rate



(注) 罹患データは山形、福井、および長崎の3県地域がん登録データに基づく。 Note: Cancer incidence data were based on cancer registries from 3 prefectures (Yamagata, Fukui, and Nagasaki).

◆ 近年、全がんの年齢調整死亡率は減少傾向、年齢調整罹患率は増加(胃がんを除いても同様)

- 🚸 年齢を75歳未満に限った場合も全年齢と同様の傾向
- ※2014年の全がんの75歳未満年齢調整死亡率は、2005年に比べて14.5%減少した
- Age-adjusted mortality rate has been recently decreasing, and age-adjusted incidence rate has been recently increasing, for all cancers with or without stomach cancer.
- A similar trend was seen for all cancer among age groups under 75.
- In 2014, age-adjusted mortality rate under age 75 in Japan decreased by 14.5% compared with 2005.

男女計の年齢調整死亡・罹患率の年次推移を全部位と胃 がんを除いた場合で検討すると、死亡率については、全 部位では1960年代後半から1990年代前半まで緩やかに減少 し、1990年代後半から減少傾向がみられる。一方、胃がん を除いた死亡率は、1990年代半ばまで増加し、1990年代後 半から減少傾向である。罹患率については、全部位では 1985年以降増加傾向にあり、胃がん・肝臓がんを除いた場 合も同様である。ただし、男性では前立腺がんを除くと近 年横ばい傾向である。

75歳以上の高齢者を除いた年齢調整死亡率は、全部位で は1960年代後半から1990年代前半まで、および1990年代後 半から減少傾向がみられる。なお、2014年の全がんの75 歳未満年齢調整死亡率は、2005年に比べて14.5%減少した (92.4→79.0;人口10万対)。胃がんを除いた場合は、1990 年前後まで増加していたが、1990年代後半以降は減少して いる。75歳以上の高齢者を除いた年齢調整罹患率は、全年 齢と同様の増減傾向であった。 Age-adjusted all-cancer mortality rate for both sexes was slowly decreasing from the late 1960's to the early 1990's, and from the late 1990's. When stomach cancer was excluded, age-adjusted mortality rate increased until middle 1990's and has been decreasing from the late 1990's. Age-adjusted cancer incidence rate for both sexes increased since 1985. A similar tendency was observed, when stomach and/or liver cancer was excluded. However, when prostate cancer was excluded, male cancer incidence stabled since mid 1990's.

Age-adjusted mortality rate under age 75 has decreased from the late 1960's to the early 1990's and has been decreasing since the late 1990's. In 2014, age-adjusted mortality rate under age 75 in Japan decreased by 14.5% compared with 2005 (92.4→79.0per 100,000 population). When stomach cancer was excluded, age-adjusted cancer mortality increased until around 1990 and has been slowly decreasing from the late 1990's. The trend of age-adjusted incidence rate under age 75 was similar to that for all ages.

資料:増減の判断は、Qiu D et al, A Joinpoint regression analysis of long-term trends in cancer mortality in Japan (1958-2004), International Journal of Cancer (124:443-448,2009)の手法を用いて行った。

Source : The judgment of increase or decrease was done using the method described in Qiu D et al, A Joinpoint regression analysis of long-term trends in cancer mortality in Japan(1958-2004), International Journal of Cancer (124 : 443–448, 2009).





# 男女別、年齢階級別、年次別喫煙率の推移(1995~2013) Trends in Sex and Age-specific Adult Smoking Prevalence (1995-2013)





[喫煙率] 2007年6月に策定された「がん対策推進基本計 画」では、たばこ対策が、がんの予防のための重要な施策 として位置づけられている。

男性32.2%、女性8.2% (2013年)。

男性では、1995年以降いずれの年齢階級でも減少傾向。 ただし、2011年は40~50歳代を除いて前年より増加。

女性では、1995年以降30歳代および40歳代で増加傾向。 2011年は20歳代と50歳代を除いて前年より増加。

[成人1日喫煙本数] 重度喫煙者(1日21本以上)は、男 性では約15%、女性では約6%となっている。

[都道府県別成人喫煙率] 喫煙率が高い上位5県は、男性 が青森県、秋田県、福島県、栃木県、富山県。女性が北海 道、青森県、大阪府、神奈川県、埼玉県。

喫煙率が低い上位5県は、男性が島根県、奈良県、福井県、京都府、鳥取県。女性が島根県、福井県、鳥取県、鹿 児島県、富山県(いずれも2010年)

[Smoking Prevalence] Male 32.2%, Female 8.2% (2013)

The Basic Plan to Promote Cancer Control programs was

launched in June, 2007. Tobacco control is considered as one of the important policies to prevent cancer.

The male smoking prevalence has been decreasing in all age groups since 1995, but increased in 2011 except age groups of 40-59 years old.

The female smoking prevalence has been increasing in 30s and 40s since 1995, but increased in 2011 except age groups of 20-59 years old.

**[Number of cigarettes smoked per day]** Heavy smokers (more than 21 cigarettes per day) are seen in approximately 15% of males and 6% of females.

[Smoking Prevalence by prefecture] The highest 5 prefectures for males: Aomori, Akita, Fukushima, Tochigi, and Toyama; the highest 5 prefectures for females; Hokkaido, Aomori, Oosaka, Kanagawa, and Saitama (2010).

The lowest 5 prefectures for males: Shimane, Nara, Fukui, Kyoto, and Tottori; the lowest 5 prefectures for females: Shimane, Fukui, Tottori, Kagoshima, and Toyama (2010).

資料:国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(http://ganjoho.jp/reg\_stat/statistics/dl/index.html)

Source : Cancer Registry and Statistics. Cancer Information Service, National Cancer Center, Japan. (http://ganjobo.jp/en/professional/statistics/table\_ download.html)

※ 表と出典は106~109ページ参照。See p.106-109 for tables and references.





■ 2001年 2004年 2007年 2010年 2013年

. 兵뺉 Okinawa 崔熙頔 Kagoshima

• Miyazak

《 能本 Kuma

w 雪 Nagasal

喱囵 Fuk

Kagawa

懊�� Tokushim

년衈=Hiroshima

雨一 Okavama \_ 島根 S 

**⊤**₩ă

KK-mX = N

谢田=Aich

Ishik

業長 の 版长 Tochia

嘿唧 Fil

K 域 Ibarak

**於田** Ak 回译 Miyagi

关ر 余ر ∰ ■Hokkaido

5.0 -

10.0-

(%)

0.0



Sex-specific Cancer Screening Rate (Males and Females aged 40-69 years old)



胃がん検診(40~69歳 男女計) Stomach Cancer Screening (Males and Females aged 40-60 years)



資料:国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(http://ganjoho.jp/reg\_stat/statistics/dl/index.html) Source : Cancer Registry and Statistics. Cancer Information Service, National Cancer Center, Japan. (http://ganjoho.jp/en/professional/statistics/table\_ download.html)





肺がん検診(40~69歳 男女計) Lung Cancer Screening (Males and Females aged 40-69 years)





乳がん検診(40~69歳 女性) Breast Cancer Screening (Females aged 40-69 years)

子宮がん検診20~69歳 女性) Uterine Cancer Screening (Females aged 20-69 years)

